

ものづくり

富士電機は、地設(現地設計)・地産・地消の考えのもと、日本をマザー拠点(工場)と位置づけ、中国、アジアを加えた3拠点でのものづくりを進めています。同時にものづくり力を高めるために、これまでサプライチェーン改革を通して強化してきた「現場力」に加え、「生産技術力」や「人材の育成」に注力し、さらなる競争力の向上に取り組んでいます。

ものづくり力を支える3つの柱

現場力

製造現場に必要な技能を高め、生産性の向上やコスト低減などを実現していく力

生産技術力

お客様にご満足いただくために、製法や生産工程、生産設備を開発・適用していく力

人材の育成

これまで蓄積してきた、ものづくりの改革に必要な技術・技能の継承



2012年度の主な取り組み

生産技術力の強化

埼玉地区設備技術センターに、核となる生産技術者を集め、設備技術開発やコアとなる要素技術開発を行い、この成果を各工場と連携して実際の製造設備や工程改善に展開しました。具体的には、生産設備・ラインの自動化として、製

造現場における作業や独自の発想を簡便な自動設備に置き換え、現場の設備技術力の向上を図る取り組みや、ロボット技術を駆使して、多品種かつ物量変動にも対応可能な自動化ラインの開発などを進めています。

組立工程における簡易自動化 (富士電機機器制御(株) 大田原工場)

ブレーカの組み立て工程において、低コストでネジ締めや銘板貼付などの作業を自動化する簡易自動装置を開発しました。ネジ締め作業では、ネジの供給は作業者が行い、ネジを締める工程を機械が行うことで、効率を高めることができました。この仕組みを海外の工場に応用し、生産技術力のグローバル展開を図りました。



ネジ締め簡易自動化装置

海外生産拠点への水平展開 (三重工場→大連富士冰山自動販売機社)

中国市場における自販機の事業拡大に向け、多機種製品に対応したラインへ全面改造しました。ライン改造にあたっては、大連富士冰山自動販売機社の社員が、マザー工場である三重工場で、約1ヵ月間、改善ノウハウを学び、改造を完了させました。



大連富士冰山自動販売機社の生産ライン

人材育成の強化

メーカーの原点であるものづくり強化に向け、国内の各工場では、技術・ノウハウの社内への蓄積や海外の生産拠点で活躍できる生産技術者、技能者の育成に取り組んでいます。

ものづくりに必要な要素技術の階層別教育や、入社2年目の若手社員を対象に品質管理(QC)や工程設計(IE)など基本となる教育を必修化しました。さらに、新入社員の「技能研修所」での基礎技能の修得教育を実施し、「技能五輪」にも出場しています。

ものづくり教育体系

	技術系社員	技能系社員
管理職層	部課長マネジメント研修	
一般社員	コア技術実践教育(階層別)全24講座 応用 製造技術 管理技術 基礎 製造技術 管理技術	監督者教育(階層別) 製造主任 作業長 リーダー
	若手/ 新入社員	基本技術教育(IE、QC、VE) 入社2年目

技能の基礎から専門分野までを習得 (埼玉・技能研修所)

新入社員を対象とした技術研修では、1年間の全寮制カリキュラムを通じて、ものづくりの基礎を学びます。4月から8月までは、はんだ付け、ネジ締めなどの基本動作を学び、9月以降、電子機器、機械加工などの専門知識・技能を身につけます。全体として約1,800時間の教育訓練のうち、技能士補の資格取得を最終目標に1,400時間の認定訓練に励み、配属後の即戦力を目指します。



技能研修所 入校式の様子



技能五輪全国大会の競技風景

Voice 社員の声



生産・調達本部
生産技術センター
技術・技能教育部
技能研修所
山藤 勝己

技能を通じて地域と交流を図る

埼玉県が地域の産業活性化として毎年開催する「ものづくりフェア」に、地域貢献の一環として、技能研修所の研修生が参加しています。2012年は、金属材料をもとにした手作りキーホルダーの製作と販売を実施しました。

会の運営はすべて研修生が行い、地域の子供たちに技能の難しさやおもしろさを伝えるよい機会となっています。



小学生のキーホルダーづくりを手伝う研修生